

みやのかわ商店街振興組合

埼玉県秩父市

【活動概要・効果】

☆地域資源を活用したソフト事業の展開と多彩な交流施設の整備

○秩父市の中心商店街としてふさわしい街づくりを目指し、組合を中心にナイトバザールをはじめとした各種イベントや環境整備の実施のほか、高齢化社会・買い物弱者のために出張商店街や買い物代行、地域の元気な高齢者が援助を必要とする高齢者をボランティアで支える事業の実施などを行っている。

☆商店街の活性化に関する研究活動の中で、秩父夜祭りをヒントにソフト面の活性化策として、ナイトバザールを昭和62年から実施。20年間で233回開催し、地域に定着するとともに、全国の商店街との交流も生まれている。

☆高齢者施設に商店街自体が出張してお店を開く「楽々屋」は、平成18年6月の開始から、市内10カ所以上の施設で約120回開催。さらに、一人暮らしの高齢者などの買物代行「御用聞き」は、当商店街に限らず秩父郡市内の店どこでも受け付け、高齢者福祉の増進に貢献している。

☆元気な高齢者が援助の必要な高齢者等をサポートする「ボランティアバンクおたすけ隊」には、20代～70代の幅広い年齢層100人が登録している。

《人員確保での工夫・苦労》

20年以上イベントやまちづくりに取り組んできて、人手不足だと感じたことはほとんどありませんでした。最初から一握りの人間が街の人達に協力を依頼しながらやって来たという経験が、頑張っただけでいさえすれば「いざとなれば、街の多くの人達が必ず協力をしてくれる」という信頼を私たちに教えてくれた様に思います。無理やり協力させるというようなことをせず、自分たちがやっている姿を見せることによって、その関係が出来てくると思います。まずは、自分のやりたい事を自分が中心となってやっていく「やらせる」ではなくて「やりたい」にしていくことが重要なのではないのでしょうか。

《活動資金確保での工夫・苦労》

資金面については、苦労させられっぱなしだと思います。当初はまだ、今よりも資金も集め易かった気がします。今の商店街の多くは、大型店の進出等の問題でかなり弱っていると思います。でも私たちの商店街は頑張ってきたからこそ何とか今の姿を保っている。決して楽ではありませんが空き店舗等もほとんど無く維持できていると思います。【金が無ければ、汗をかくしかない】という信念もありますが、行政と多くの商店主との協働で乗り切ってきたと思います。これが、今日、福祉事業や商店街の拠点づくりを始め、街の資産を大事にしながらまちづくりに取り組める原動力になっていると思います。

【現場の声】

私達が行ってきた、みやのかわナイトバザールを20年以上継続してこられた大きな理由は2つ有ると思います。その一つはイベントは手段だということにいち早く気がついたことだと思います。ナイトバザールを続けることによって市民が味方になってくれる、また、行政の方も徐々に評価をし協力してくれるようになってくれる、その事によって私達の目的でもあるまちづくりができるようになっていく、その事を知ったことが大きかったと思います。もう一つは原則、同じ事をやらなかった事です。20年以上もナイトバザールを続けてきて毎回毎回、その中身を変えながらやってきた。つまりナイトバザールのすべてが一回目のつもりで企画を練ってきた事、その事によってマンネリを防ぎ、消費者に飽きさせることをさせなかった事が良かったと思います。その結果アイデアを出す、企画を練るという訓練を自然と覚え、それをまちづくりに生かしてきたことが今のみやのかわ商店街を成長させてきた大きな要素だと思います。

～みやのかわ商店街振興組合
理事長 島田 憲一さん



出張商店街
「楽々屋」